

皆さん！平野区民ホール行かれました？？面白かったですねえ～・・・。

昨年からはまった坂井先生コラムも今回で10回目を迎えました。それを記念して、今回は特大版でお届けしたいと思います！！

皆様お待たせいたしました、前回の続きの「3」から始めます・・・

第10回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

3. わかるように伝えるためにシンボル

別のモダリティーで伝えるための方法としてシンボルを用いる方法があります。目で見えてわかるようにシンボルを使って伝えるようにするわけです。音声で聞いてもわからなかった人が、シンボルで伝えられると見てわかるようになる場合があるのです。

（ア）場所をわかりやすく伝える

子どもたちをトイレに連れて行くときはどのようにしているのでしょうか？「はい、おしっこ、おしっこ」とか「トイレに行きます」というように音声だけで伝えているだけではないでしょうか。

言葉を理解することができない子どもの場合は、それは「○△□※&%\$#」というようにしか聞こえていないかもしれません。どこへ連れて行かれるのかわからないと誰でも不安になるのではないのでしょうか。

行き先が理解できることで安心して移動できるようになる子どももいるのではないかと考えられます。トイレなどに行くときにも、音声表出による言葉以外の方法で伝えることができれば、安心してトイレに行くことができる子どももいるということです。

もちろんトイレには、トイレのマークが必要です。それはもちろん伝えるために使ったシンボルと同じものです。同じシンボルによる表示があると、わかりやすくなるはずですが、伝えられたシンボルと行き先で目にしたシンボルそれが一致することでより理解も進んでいくのではないかと考えられます。

行き先をわかりやすく伝えることができれば、自分で移動することができる子どもたちもいるはずですが。

このようにして自分で行き先を理解して移動することができるようになれば、一回一回手をつないで移動する必要もなくなります。一人で移動できるようにするための工夫のひとつとして活用することができるのです。

（イ）今からすべきことをわかりやすく伝えるために

「いつするのか」、「何をするのか」、「終わったら何があるのか」という情報を得ることは、見通しをもつうえでとても大切なことです。見通しをもつことができないと誰でも不安になるからです。

このような情報を伝えるために、どのような工夫があるのでしょうか。シンボルと文字などを組み合わせた日課なども使うことができるでしょう。全体に周知するために教室に示されている時間割では理解することができない場合には日課を個別に伝える必要もあるでしょう。文字では理解することができないけれど、シンボルを用いることで理解することができる子どもたちがいるのであれば、シンボルによる日課も考えてみる必要があります。記念式典や行事の際にもスケジュールは必要です。校外学習や運動会などでも個別のスケジュールが必要な子どももいるのではないのでしょうか。

（ウ）携帯電話の活用

わかりやすく伝えるということを考えたとき、携帯電話も活用することができます。携帯電話のカメラ機能を使って伝えるようにするのです。携帯電話の中には、カメラの機能がついているものが数多くあります。この機能を活用するわけです。あらかじめデータとして携帯電話に取り込んでおいたシンボルや写真を必要に応じて呼び出し、伝えるために使うのです。また、そのとき携帯電話で写真に撮ってその画面を見せて伝えるということも考えられます。4月に学研から「ちょこっとコミュニケーション」という本を出します。その本には、携帯電話で見せることのできるシンボルと動画を約300種類付録で付けています。ぜひ参考になさってください。4月をお楽しみに！！